

イラク国会選挙(2010年3月7日)と分極化するイラク政治

山尾, 大
九州大学大学院比較社会文化研究院

<https://hdl.handle.net/2324/21941>

出版情報：中東研究. (508), pp.60-74, 2010-06-30. 財団法人中東調査会
バージョン：
権利関係：



中東研究

第 508 号 (2010/2011 Vol. I)

【シリーズ：大使の見たままに】

スーダンの今	石井 祐一	3
今日のモロッコと日本	広瀬 晴子	14
素顔のリビア ―或る大使の体験見聞録①	塩尻 宏	19

【特集：中東、変化の軌跡

―湾岸危機から 20 年、イラン・イラク戦争勃発から 30 年】

アフマドネジャドとシュンペーター	高橋 和夫	31
記憶の名残 ―湾岸危機と湾岸戦争の現場から	保坂 修司	38
ハマースの論理と対イスラエル和平 ― プラグマティズムへの変容 1987～2007	森 まり子	47
イラク国会選挙(2010 年 3 月 7 日)と 分極化するイラク政治	山尾 大	60
フセイン・元イラク大統領に 集団人質にされた日本人の追憶	竹内 良知	75
分断されるイラン民衆 ― アーシューラーと革命記念日の衝突	山崎 和美	90

【焦点：中東若者事情】

若く熱いイスラエルのジャズ	樋口 義彦	100
クウェイト、エリート層の若者たち ―政治・経済・社会観	近藤 重人	106

【中東を理解する為の書籍案内】

Robert Lacey 著 <i>Inside the Kingdom</i>	小早川 敏彦	117
--	--------	-----

イラク国会選挙（2010年3月7日）と 分極化するイラク政治

山尾 大

I. はじめに

2009年のイラクには、ヌーリー・マリーキー首相（ダワ党党首）の強いリーダーシップによって、中央集権的な政府が成立した。同年1月の地方選挙で、マリーキー首相は、自らが率いる法治国家同盟が大勝したことを背景に、首相府の権限を拡大し、強い指導者として戦後イラクに新風を巻き起こした。シャルク・アル＝アウサト紙は、こうした状況を「マリーキー・インティファード」と総括した〔SA 30 Dec 2009〕。同時に、地方選挙を契機に、戦後イラク政治は、ナショナリズムと国民統合を強化する方向に舵を切ることとなった〔山尾 2009〕。

こうしたなかで、2010年3月7日に戦後3度目となる国会選挙が実施された。今回の選挙は、戦後初の正式な政府であるマリーキー政権の4年間の評価を問う選挙となった。同時に、2010年8月末の駐留米軍の半減、2011年末の完全撤退と、その後の自律的なイラク政権の形成を左右するという意味も持っていた。

「宗派の軸に沿った動員と宗派別の投票行動に特徴づけられる国家のバイの争奪戦」であった2005年の2回にわたる国会選挙、「イラク・ナショナリズムに基づく中央集権型政府の形成と、連邦制に基づく（シーア派）地方政府の形成を目指す政策対立」であった2009年1月の地方選挙と比較すると、今回の2010年3月の国会選挙はいかなる特徴をもっているのだろうか。

端的に言えば、今回の選挙は、戦後初の世俗派の躍進とイラク政治の「分極化」（あるいは票の分散）という結果に終わった。具体的には、イヤード・アッラーウィー率いる「イラク国民運動」（以下、イラーキヤ）が91議席を獲得して第1党に、マリーキー首相のダワ党率いる「法治国家同盟」が89議席で第2党、イラク・イスラーム最高評議会（以下、ISCI）とサドル派を中心とする「イラク国民同盟」が70議席を獲得して第3党、「クルド同盟」が43議席で第4党となった。以上の4党だけで総議席の9割を占めるものの、いずれも過半数を獲得できず、イラク政治の分極化が進行した（文末図表1）。

本稿は、3月7日のイラク国会選挙で以上のような分極化という結果に終わったのはなぜかという問題を、政党連合の形成をめぐる選挙前哨戦から結果の開票までの一連の流れを概観し、特徴と論点を抽出・分析することで明らかにする。

具体的には、第II節で、選挙制度、政党連合の再編、争点を概観する。続く第III節で、選挙結果とその特徴を分析する。最後に第IV節では、選挙戦の論点を整理することで、今回の選挙の意味と分極化の原因を明らかにする。なお、本稿執筆段階で進行中の組閣にか

んしては、稿を改めることとする。

II. 制度の変化と政党連合の再編——分裂した「与党」、統合した「野党」

本節では、はじめに選挙制度を概観し、次に主要政党連合の形成とその特徴、争点を俯瞰する。

1. 制度の改正をめぐるポリティクス

はじめに、選挙制度をみておきたい。今回の選挙では、選挙法が改正されたが、重要な変化は以下の2点である。

第一に、非拘束名簿制比例代表（全国18選挙区）が導入されたことである（2005年法律第16号修正選挙法第3条1項）。2005年12月の国会選挙は、政党連合のみに投票する拘束名簿制で実施されたが、今回採用された非拘束名簿制のもとでは、有権者は政党連合とそのリスト内の立候補者の双方に投票することができる。そして、各政党連合は、得票率に応じて選挙区ごとに議席が配分される。各政党連合は、配分された議席数だけ、得票数の多い立候補者から当選させる（第3条1～3項）、という仕組みである。

非拘束名簿制を導入した結果、①党幹部があらかじめ当選者の見通しを立てにくくなる点、②党議拘束が弱くなる点、③「民意」を反映しやすく、透明性が高くなる点、④リスト作成の戦略がより重要になる点、などの影響がみられた。なかでも④の政党の戦略が、今回の選挙では最も重要である。つまり、適切な候補者を適切な選挙区から適切な数だけ出馬させることが、政党連合の戦略上極めて重要なポイントとなったのである。ダワ党が、マリーキー首相と並ぶ目玉候補として、イスラーム主義運動のカリスマ的創始者ムハンマド・バーキル・サドルの実子ジャアファル・サドルをバグダードから出馬させたことは、こうした戦略の一端を示している。

第二の重要な変化は、総議席数が275から325議席に拡大したことである。選挙法は、2009年11月8日の国会通過法案、11月23日の修正法案、これにさらに修正を加えた12月6日法案の3段階で改正された。12月9日に大統領府の承認を得た正式な選挙法では、全国一律2.8%の人口増加率を組み込んで（第1条1項）、総議席数が325議席に拡大した。

2. 政党連合の再編

次に、政党連合をめぐるポリティクスをみていこう。権威主義体制から新興民主主義国になったイラクでは、比例代表制が導入されたことで、典型的な多党制になった〔山尾 2010a〕。いずれの政党も単独で政権運営ができないために、連合を形成し、出馬者の共通リストを形成するわけである。今回の選挙でも、298の政党から6,172人の出馬者が12の政党連合を形成した。したがって、政党連合の形成をめぐる駆け引きは、パワーポリティクスの縮図となり、戦後のイラク政治を分析するうえで極めて重要になる。今回の選挙の政党連合の形成をめぐっては、次の2点が重要であった。

第一に、政権党のイスラーム主義勢力が、マリーキー首相のダアワ党を中心とする「法治国家同盟」と、ISCIを中心とする「イラク国民同盟」に分裂した。これまでダアワ党とISCIを中心とするイラク統一同盟（以下、UIA）が政権を運営していたが、2009年地方選挙を機に分裂した。ナショナリズムに基づく中央集権的な政策を掲げたダアワ党と、連邦制に基づく地方政府の形成を目指したISCIが対立したことが原因である。この対立の背景には、同じシーア派イスラーム主義政党でも、1990年代からイラク・ナショナリズムを主張するようになったダアワ党に対して、ISCIはイランの影響下でシーア派イスラーム主義色を強めてきたという歴史的差異が横たわっている[Yamao 2010]。

ダアワ党とISCIは半年以上にわたって政党連合形成の駆け引きを行っていたが、最終的にISCIは、サドル派やイブラーヒーム・ジャアファリーの国民改革潮流などを取り込んで、8月24日にイラク国民同盟の形成を発表した[al-Zamān 25 Aug 2009]。一方でダアワ党は、10月1日にスンナ派勢力や部族などを取り込んで、法治国家同盟の形成を正式に発表した[InPA 1 Oct 2009]。

かくして、ダアワ党とISCIは別々の政党連合で出馬することが決定した。それには次の四つの要因がある。第一に、マリーキー首相が2009年地方選挙で大勝したことで自信を強め、さらに地方政府形成を目指すISCIが支持を集められないことが明確になったため、法治国家同盟での出馬のほうが有利であると考えたからである。この姿勢は、ハサン・サニード（ダアワ党）が「ISCIはシーア派イスラーム主義色が強すぎる、国民に広く支持されるためには、脱宗派主義と広範な勢力を包含した連合形成が不可欠だ」[InPA 1 Jun 2009]と発言したことに表れている。第二に、マリーキー首相の統投に、ISCIとサドル派からの同意が得られなかったことである¹。第三に、イラン政府の影響力の低下である。テヘランはマリーキー首相をコントロールできなくなったために[ICG 2010: 13]、シーア派イスラーム主義勢力の統合に失敗した。第四に、これまでシーア派イスラーム主義勢力をまとめる役割を果たしていたスィースターニーが中立姿勢を明確にしたことで、元来性格の異なる政党は連合を維持できなくなった。いずれにせよ、シーア派の「与党」が分裂したことは、分極化の進行と票の分散に帰結することになる。

さて、今回の政党連合形成の第二の特徴は、イラーキーヤが、これまで複数の政党に分散していた世俗主義勢力を中心とする「野党」を統合し、スンナ派の代表であったイラク合意戦線の中核勢力を取り込んで大連合を形成したことである。これまで世俗派は、アッラーウィーのイラク国民リストとサーリフ・ムトラク率いるイラク国民対話戦線などに分かれていた。それが今回の選挙でイラーキーヤに統合した。それに加えて、ハーシミー副大統領がイラク合意戦線を離脱、新党「革新リスト」を形成し、イラーキーヤに合流した[al-Hayāt 27 Nov 2009]。この背景には、合意戦線が2009年地方選挙で大敗し、勢力が衰退したために、一部有力幹部が合意戦線に見切りをつけたことがあった。その結果、「リベラリズムこそが解決だ」とのスローガンを掲げ、ハーシミーに加えて合意戦線からラーウィウ・アイサーウィー副首相、サラーム・ズビーイー前副首相、地方選挙で台頭したハド

ゥバー・リストのヌジャイフィー兄弟（対クルド強硬派）などの有力者を幅広く取り込むことに成功した[al-Hayāt 1 Nov 2009; SA 1 Nov 2009]²。だが、一方でこうした勢力は、マリーキー政権交代という1点のみで共通した「脆弱な大連合」である点には留意しなければならない。

世俗主義勢力「野党」の統合は、法治国家同盟とイラク国民同盟に分裂したイスラーム主義勢力「与党」と比較すると、好対照である。イラーキーヤは、大連合の形成に成功したことで、票割れを回避することが可能となった。

以上でみてきたように、今回の選挙では、既存の政党連合が解体・再編され、宗派横断的な連合が形成された。主要政党連合の変遷をプロットした図表2は、UIAが法治国家同盟とイラク国民同盟に分裂し、世俗主義勢力がイラーキーヤへ統合したことを示している。また、スンナ派の元合意戦線幹部ムトラク・ジャブブリーや、世俗主義のマフディー・ハーフィズが、法治国家同盟に参入したことも、既存の連合が宗派横断的に再編されたことを端的に示している。さらに、スンナ派部族を中心とした覚醒評議会も、シーア派主導の三つの連合に加盟した³。最もシーア派イスラーム主義色の強いイラク国民同盟でさえ、チャーテルジーや覚醒評議会などのスンナ派勢力を取り込んでいる（図表2）。

3. 争点——脱バース党法をめぐる競合の再浮上

最後に、図表3をもとに、争点をみてみよう。ここでは、相反する二つの側面が指摘できる。第一に、選挙綱領に示された政策が、いずれの政党連合も類似している点である。具体的には、クルド同盟を除く全ての主要政党連合が、中央集権的で脱宗派主義的な国民統合を目指すナショナリズムを掲げた。最もナショナリズム色が強いのがダアワ党で、宗派対立の克服と、治安の維持を最大の目標に位置付けた。アッラーウィーのイラーキーヤも、中央集権的なナショナリズム政策を強調した。2009年地方選挙で、南部の地方政府樹立を最重要課題に掲げていたISCIさえも、地方政府形成を棚上げし、中央集権的な国民統合とナショナリズムを政策課題に掲げた[MV 15 Feb 2010]。ISCIは、イラクの分断を惹起する南部地方政府の形成は世論の支持を受けないことを認識したためである。

第二に、政策の類似性にもかかわらず、旧バース党員の政治プロセスへの復帰をどの程度認めるかという国民和解をめぐる考え方には根本的な相違が生じた。イラーキーヤは、「全てのイラク人のイラクのために」をスローガンにし、旧バース党勢力の政治参加を容認した。一方でマリーキー首相の法治国家同盟は、徹底的な旧バース党排除政策を基軸とする。この姿勢は、マリーキー首相の「政府の権限を行使してでも、旧バース党員の選挙参加を徹底的に回避する」[al-Zamān 11 Nov 2009]との発言に端的に表れている。酒井が2005年1月の制憲議会選挙を「アッラーウィー暫定政府によるフセイン体制の部分否定政策から、UIAの全否定政策への転換」[酒井 2005: 34]と分析しているように、こうした両者の対立は、戦後一貫している。

旧バース党員の復帰をめぐる対立が浮上したのは、問責・公正組織(Hay'a al-Musā'ala wa

al-Adala) が、出馬者の資格審査を行ったことに起因する⁴。同組織は、2010 年 1 月に脱バアス党法に抵触するために約 400 人の出馬者の登録を抹消する、という決定を発表した。出馬禁止の決定を受けた候補者には、イラーキーヤに合流した対話戦線党首のサーリフ・ムトラクや合意戦線ブロック長のザーフイル・アーニーなどの現職有力議員が多数含まれていた [al-Hayāt 7 Jan 2010; 8 Jan 2010]。

脱バアス党法案に基づく出馬禁止は、今回の選挙で初めて導入され、それが現職議員にまで適用されたことで大スキャンダルへと発展した。その後、約 1 カ月以上にわたってムトラクら出馬禁止議員と問責・公正組織は批判合戦を展開した。ムトラクはこの決定がイラン政府の圧力であると批判し、同組織は憲法の厳密な適用だと反批判した [al-Hayāt 13 Feb 2010]。事態は連邦最高裁への告訴にまで発展したが、2 月 12 日の選挙キャンペーン開始にさいして裁判が打ち切られ、最終的には、約 500 人の出馬禁止が決定された [INA 12 Feb 2010]。出馬禁止の決定を受けたのは、イラーキーヤ 72 人、統一イラク同盟 67 人などで、ほとんどが世俗主義者であった [ICG 2010: 29]。

旧バアス党員の排除をめぐる選挙直前の対立は、政権「与党」が「野党」の統合に危機感を強めたことを反映している。つまり、勢力を拡大するイラーキーヤに対して、その一角を担うムトラクを排除するための政治的判断であったと解釈できる。現に「野党」は、問責・公正組織の決定が、チャラビーによるイラーキーヤ外しだと批判してきた [S4 2 Mar 2010]。

だが、たとえこれが「与党」の政治的判断によるイラーキーヤ崩しだったとしても、国民からの一定の支持を獲得したことだけは間違いない。というのも、旧バアス党員の出馬禁止決定を支持するデモが頻発したからである [INA 8 Feb 2010; S 11 Feb 2010]。

いずれにせよ、選挙綱領が類似している以上、今回の選挙では脱バアス党政策だけが明確な争点になり得た。旧バアス党員の政治プロセスへの復帰をどの程度認めるかという問題は、言い換えれば、前政権の遺産をどのように清算して国民和解を実現するか、という問題になる。国民和解の問題は、突き詰めれば、国民統合の境界をどこに引くかという、より根本的な問題へと発展する。どの程度の旧バアス党員が、国民和解を経て新たな国民統合の枠組みに復帰できるのかをめぐる対立が生じたのである (図表 3)。

III. 選挙結果の分析——票の分散と政治的分極化

本節では、3 月 27 日に発表された結果を概観し、その特徴を分析する。

I. 結果

3 月 7 日に行われ、3 月 20 日に発表された開票結果は、図表 4 に整理した通りである。

イラーキーヤが第 1 党に躍進したのは、三つの理由があった。第一に、政権交代への期待が高まったことである。宗派に偏りがちな宗教政党を牽制し、宗派横断的な包括政党を求める人々が増加した。こうした人々は、真の意味での宗派横断的な政策は、世俗主義政

党こそが実現可能であると主張し、政権交代を求めた。また、マーリキー政権で、汚職などの問題も政権交代の主張の根拠となった。汚職に対する批判は、南部シーア派地域では、政治不信という形で表出した。これを反映して、南部では投票率の低下がみられた。一方で北部では、政治不信に対して、投票の棄権という対応をするのではなく、政権交代のために投票する、という選択肢を取った有権者が多かった。イラーキーヤが高い得票率を獲得した北部 4 県で投票率が相対的に高かったことは、世俗政権に期待する有権者が積極的に投票したことを傍証している (図表 5)。

第二に、イラーキーヤが、イスラーム主義の現政権の交代を望む世俗派、インテリ層、ムトラクなどの旧バアス党勢力を統合したことで、票割れを回避することに成功したことである。さらに、これまでスンナ派を代表してきた合意戦線から有力政治家がイラーキーヤに合流した結果、合意戦線の票田であったアンバール県やニーナワー県の票の大部分が、イラーキーヤに流れた。アンバール県ではアイサーウィー副首相が約 8 万票、ニーナワー県ではハドゥッパ・リストのウサーマ・ヌジャイフィーが約 27 万票を獲得して第 1 位当選を果たしている。興味深いのは、高い得票率を獲得した出馬者はみな、マーリキー政権後期に台頭した地元政治家であるという点である。アイサーウィーはバアス党政権時代からアンバール県の国立病院の医者であり、ヌジャイフィーは地方選挙でシャンマル部族と同盟関係を構築して台頭した。マーリキー政権打倒を掲げて、こうした新たな地元勢力を取り込むことに成功したことが、アンバール、サラフッディーン、ディヤーラー、ニーナワーの 4 県で、イラーキーヤの圧勝につながったのである (図表 6)。

第三に、票の分散回避と表裏一体の関係にあるが、「与党」が法治国家同盟とイラク国民同盟に分裂したことで票が分散したことが、イラーキーヤを相対的に第 1 党に躍進させた決定的な要因となった。無論、「与党」が分裂しなければ、過半数を獲得したと単純には言えないが、政権党 UIA の分裂が、イラーキーヤの第 1 党への躍進につながったことだけは、否定できない。

一方で、政権党であり、かつ 2009 年地方選挙で大勝したダアワ党を中心とする法治国家同盟が第 2 党になった要因は、次の 3 点に整理できるだろう。第一に、第 2 党に転落したと考えるならば、イラーキーヤ勝利の原因と同様に、「与党」の分裂による票の拡散が最大の敗因である。

第二に、にもかかわらず、僅差で第 2 党にとどまったと評価するのであれば、勝因はマーリキー政権の業績 (ナショナリズムに基づく中央集権、国民和解、治安維持) が評価されたことである。とりわけ、スンナ派勢力や部族を取り込み、宗派横断的な連合の形成にある程度成功したことが法治国家同盟の支持を強固にした。マーリキー首相は、南部のシーア派部族を「イスナード評議会」に組織化し、独自に予算をつけて治安維持にあたらせていた。こうした南部の部族は、法治国家同盟の強固な支持基盤となった [al-Hayāt 4 Apr 2010]。マーリキー首相が選挙キャンペーンで南部を重点的に回ったのも、こうした理由からである。この支持基盤の確立が、カルバラー、ナジャフ、ムサンナー県をはじめ、南部

6 県での過半数近い得票率を獲得する要因となったのである。

第三に、法治国家同盟は、非拘束名簿制という制度の特徴をよく理解した戦略を立てた。具体的には、各選挙区に有力政治家を配備し、票割れを起こさないように候補者を配置した。また、バグダード県では、マーリキー首相 1 人で約 62 万票を獲得したことで、1,800 票という比較的少ない得票の候補者も当選させることに成功した⁵。ダアワ党は、Facebook や Youtube などのソーシャル・ネットワーキング・サイトを利用した支持呼びかけを行い、西洋の選挙コンサルタントに戦略作成を依頼した [MN 13 Feb 2010]。その結果、図表 7 が端的に示しているように、法治国家同盟は約 20% という最高の当選率で、票割れを防いだ (図表 7)。

とはいえ、イラーキーヤと法治国家同盟は、ほとんど得票に差がなかった。獲得議席数こそ 2 議席の差があるものの、バグダード県ではマーリキーが約 62 万、アッラーウィーが約 41 万の得票数で、個人得票ではマーリキー首相が王勝している⁶。

これに対して、地方選挙で大敗した ISCI を中心とするイラク国民同盟が、南東部 3 県 (カーディスィーヤ、マイサーン、ズィー・カール) で得票率を伸ばし、第 3 党に持ち直したのは、次の二つの要因があった。第一に、既に指摘したように、地方政府樹立からナショナリズムに基づく中央集権的な政策へと政策を大きく変更したことで、支持を回復したことである⁷。

第二に、重要なのは、サドル派が大きく票を伸ばしたことである。図表 8 のイラク国民同盟内部の政党別議席獲得数が示すように、イラク国民同盟の合計 70 議席 (うち補償議席 2 議席) のなかで、サドル派が 36 議席 (52.9%) を獲得した。反対に、ISCI は民兵のパドル組織の票を合わせても 16 議席 (23.5%) しか獲得できなかった。サドル派が票を伸ばしたのは、①事前に予備選挙を実施して自派の出馬者を選定し、リスト形成の戦略を練り上げたこと、②食料や毛布などを配布し、インフラ整備や生活支援を継続することで、依然として貧困層に根強い支持を獲得したこと⁸、の 2 点が要因である。

予備選挙では、サドル派メンバーと支持者のあいだで、県別に投票が実施され、どの県でどの候補者がどの程度票を獲得できるかが入念にチェックされた⁹。これによって、サドル派内部の票の分散を回避し、支持者の票田を自明的に維持することに成功した。その結果、サドル派は地元の無名出馬者を多く当選させた。ごく一例を挙げると、女性出馬者で全国最大得票数を獲得したマハー・ムハンマド (バグダード県出馬)、サドル派コム支部長で、マイサーン県 1 位当選のハーリド・ジャイヤシーは、中央政府では無名の新人であった。こうしてサドル派は、集票能力のある地元出馬者を適材適所に配置することに成功した。

そして、地元勢力の台頭を支えたのは、貧困層からの支持であった。イラク国民同盟が票を伸ばした南東部 3 県は、湿地帯が広がる最貧困地域であるが、図表 8 からわかるように、サドル派の当選者が多い。ズィー・カール県では、アーディル・マフディー副大統領 (ISCI 幹部) よりもサドル派候補の得票数が多い。一方で、バグダードでもサドル派の

当選が際立っているが、同県の票田はサドルシティやシュアラ地区などのスラム街である。つまり、サドル派の伸長によって、イラク国民同盟は票を回復することに成功したのである (図表 8)。

2. 特徴——分極化する政党

以上で概観した主要政党の結果は、全体としては次の四つの特徴に整理できるだろう。

第一に、いずれの政党連合も単独で過半数 (163 議席) を取れず分極化したこと、にもかかわらず上位 4 政党連合の議席占有率が、実に約 90% (325 議席中 293 議席) に達したこと、である。第 1 党のイラーキーヤと第 2 党の法治国家同盟の獲得議席数がわずか 2 議席差だったことに表れているように、いずれの政党も圧倒的な票を獲得できず、政党支持が割れた。この背景には、どの政党を支持するかをめぐって、イラク人の意見が割れたという事実があった。

第二に、イラク戦争後初めて世俗主義勢力が躍進したことである。第 1 回目の選挙以来、世俗主義勢力はイスラーム主義の陰に隠れたままだった。今回の選挙で初めて世俗主義勢力が躍進した背景には、マーリキー政権打倒のために、世俗主義を中心とする「野党」が結束したことがあった。

第三に、現職議員の再選率が極めて低いことである。現職議員 275 人のうち、当選者は 62 人にとどまった [al-Sabāh 29 Mar 2010]。これは、再選議員の割合が、わずか 19.1% にとどまることを意味する。反対に、イラーキーヤやサドル派の勝因からも明らかのように、新たな地元勢力が票を伸ばす結果となった。当選者の 71% が 30~40 歳代の若手議員だったことも [al-Hayāt 20 Apr 2010]、新世代の政治家の台頭を証明している。政治不信と地方に根付いた新世代の政治家の台頭という二つの要因が生み出した結果だと言えよう。

第四に、非拘束名簿制の導入で候補者に直接投票ができるようになった結果、女性議員の当選が極端に減少した点である。イラクには国会議員の 25% が女性であるべしとの法律があるが (325 議席中 82 人以上)、女性当選者はわずか 21 人だった。その結果、女性枠繰り上げ当選の措置が取られ、女性議員の 74.7% にあたる 61 人が繰り上げ当選となった。これは、「女性の政治参加が民主化のカギ」との考えが、現在のイラクの民意に反していることを示している。

以上に整理した四つの特徴のなかでも、過半数を獲得した政党連合がないことと分極化が、選挙後の新政権の形成に最も大きな影響を与えることになる。その結果、イラクは必然的に次の二つの問題に直面することになった。第一に、連立政権の形成が必要となることである。各政党連合は、大勢が明らかになった直後から、過半数獲得のための連合交渉を開始した。ここに、選挙前の政党連合の再編が再び発生することになる。第二に、首班指名をめぐる対立である。首班指名には国会議員の 3 分の 2 の賛成 (217 議席) が必要となる。この問題は、分極化した状況のなかで、過半数確保よりも困難な課題となり、首班指名にともなう多数派工作は、後の組閣にも大きな影響を与えるだろう。

IV. おわりに

では今回の選挙はいかなる意味を持っていたのだろうか。論点は大きく三つあるだろう。

第一に、今回の選挙を左右したのは、「インティファード」以降のマリキー首相の強いリーダーシップに対する反感であった。首相府の権限拡大、サドル派民兵の弾圧（2008年3月）、近隣諸国との関係悪化（2009年後半の首都での大規模テロへの対応）などのマリキー政権の政策が、「与党」の分裂と、世俗派勢力の「野党」の結束に帰結した。とりわけ「野党」は、マリキー政権打倒の機運の盛り上がりのなかで結束し、票を伸ばした。いわば、マリキー首相は、政権後半で獲得した強力なリーダーシップの「つけ」を、今回の選挙で払われたのである。それが選挙前の政党連合の再編に影響を与え、それゆえに選挙結果を大きく左右した。

第二に、今回の選挙は、国民和解の具体的な方策をめぐる対立であった。国民和解とはすなわち、バアス党政権の遺産を清算し、旧バアス党员をどの程度新たな国民統合に組み込むかという問題である。ナショナリズムに基づく国民統合が重要であることは、2009年地方選挙で明らかになったが、今回の選挙では、その国民統合の具体的な境界線をどこで引くかをめぐって対立が生じた。旧バアス党员をも含む広範な国民統合を目指すアッラーウィー型国民和解と、旧バアス党员を完全に排除したマリキー型国民和解が、競合したのである。

第三に、上記の二つの論点に対するイラク人の民意が分かかれ、政治が分極化した、という点である。どのような政権のもとで、どのように国民統合を行うかにかんして、イラク人は多様な意見をもち、それが収斂していない。票の分散は、民意が選挙結果に明示的に反映されたという点で、極めて高く評価できる反面、その帰結としての政治的分極化は、短期的には政局の混乱と不安定化をもたらすことになる。

以上で論じてきたことは、次のように整理できるだろう。今回の国会選挙は、①マリキー政権後半の強いリーダーシップに反対する勢力の「カウンター・インティファード」であり、②旧バアス党排除のマリキー型国民和解と、旧バアス党包含のアッラーウィー型国民和解とのあいだの国民統合の具体的な方法を問う選挙であり、その結果、③以上の2点に対する評価が完全に分かかれ、その結果政治が分極化したのである。

だが、分極化した政治は、次なる政治ゲームの開始に直結する。開票直後から、新政権の形成に向けて政党連合が再編されている。ここで問題になるのが、選挙後の政治ゲームが、選挙で反映された民意とは無関係に進展することである。政治エリート間の国家のバイの争奪戦が激化し、政治ゲームと選挙で表明された民意がかけ離れていくと、政治と社会の乖離につながる。これは、国民の政治不信に直結し、治安の悪化、政治的不安定に帰結することになるだろう。

いずれにしても、政治が分極化してしまった以上、新政権が脆弱になることだけは間違いない。過半数を取る政党連合がなくなり、各党の調整型の脆弱な政権になる。新政権の正当性も危うくなる。こうして、「インティファード」と形容された強い中央集権的な政府

は、終焉を迎えた。

(2010年5月10日脱稿)

<引用文献リスト>

1. 外国語

ICG: International Crisis Group. 2010. *Iraq's Uncertain Future: Elections and Beyond* (Middle East Report No.94).

Yamamoto, Dai. 2008. "Transformation of the Islamic Da'wa Party in Iraq: from the Revolutionary Period to the Diaspora Era", *Asian and African Area Studies*, 7 (2), pp. 238-267.

———. 2009a. *Transformation of the Iraqi Islamist Parties and their Framing in the Changing Regional and International Political Environments*. Kyoto Working Papers on Area Studies No. 16 (GCOE Series 14), January, 39 p

———. 2009b. "An Islamist Social Movement under the Authoritarian Regime in Iraq during 1990s: A Study on the Shi'ite Leadership of Ṣādiq al-Ṣadr and its Socio-political Base", *AJAMES*, 25 (1), pp. 1-29.

———. 2010. "Islamism or Nationalism?: Struggle for a New Iraqi State-building", distributed paper at *Future of Iraq: Social, Economic and Political Issues in Question* (Crown Plaza Hotel, Beirut, Lebanon, 16-17 January).

2. 日本語

酒井啓子 2005 「イラク移行政権と国民議会構成にみる戦後イラクの政治勢力」『アジア研究ワールド・トレンド』118, pp. 33-40.

山尾大 2009 「イラク・ナショナリズムが勝利した日——2009年1月31日イラク地方県議会選挙の分析——」『イスラーム世界研究』2 (2), pp. 152-175.

———. 2010a 「政党の合従連衡がもたらす宗派対立の回避——戦後イラクの政党政治と権力闘争（2003年～2008年8月）——」佐藤章（編）『新興民主主義国における政党の動態と変容』アジア経済研究所, pp. 101-132.

———. 2010b 「イラク覚醒評議会と国家形成——紛争が生み出した部族の非公的治安機関をめぐる問題——」佐藤章編『アフリカ・中東における紛争と国家形成』（調査研究報告書）アジア経済研究所, pp. 19-48.

3. 定期刊行物

al-'Adāla (The Organ of the ISCI, Web 版 <http://www.aladalanews.net/home/>)

al-Hayāt (Web 版 <http://www.daralhayat.com/>)

INA: Wikāla Anbā' al-'lām al-'Irāqī (Web 版 <http://al-iraqnews.net/new/>)

IPA: Iraqi Press Agency (Web 版 <http://www.iraqpa.net/>)

InPA: (*Wikāla al-Ṣaḥīfa al-Mustaqilla*) (Web 版 <http://www.ipairaq.com/>)
 ISCI: *al-Majlis al-A'lā li-l-Thawra al-Islāmiyya fi al-'Irāq* (The Organ of the ISCI, Web 版
<http://almejlis.org/news/>)
 al-Milaff (Web 版 <http://www.almilafpress.net/>)
 MN: *Mawṣū'a al-Nahrāyīn* (Web 版 <http://www.nahrain.com/>)
 Nūn (Web 版 <http://non14.net/>)
 RD: *Rādīyū Dijla* (Web 版 <http://www.radiodijla.com/>)
 RN: *Rādīyū Navā* (Web 版 <http://radionawa.com/ar/>)
 S: *al-Sūmāliyya* (Web 版 <http://www.alsumaria.tv/en/home.html>)
 SA: *al-Sharq al-Awsaṭ* (Web 版 <http://www.asharqalawsat.com/>)
 al-Ṣabāḥ (Web 版 <http://www.alsabaah.com/>)
 al-Wasaṭ (Web 版 <http://wasatonline.com/>)
 al-Zamān (Web 版 <http://www.azzaman.com/>)

筆者略歴

山尾 大 (やまお だい)

日本学術振興会特別研究員 (PD)。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了、京都大学博士 (地域研究)。主要論文に、「An Islamist Social Movement under the Authoritarian Regime in Iraq during 1990s: A Study on the Shi'ite Leadership of Ṣādiq al-Ṣadr and its Socio-political Base」, *AJAMES*, 25 (1), pp. 1-29, 2009 年、「政党の合従連衡がもたらす宗派対立の回避——戦後イラクの政党政治と権力闘争 (2003 年～2008 年 8 月) ——」佐藤章 (編)『新興民主主義国における政党の動態と変容』アジア経済研究所, pp. 101-132, 2010 年などがある。

¹ グアワ党が UIA への合流を最終的に達成できなかったのは、同党が主張する UIA 議席の 51% 配分率を ISCI が承認しなかったこと、マリーキー首相の首班指名に反対する勢力が存在したことが原因である [RN 25 Aug 2009]。サドル派は、グアワ党が UIA に加盟しない限り、マリーキー政権の第 2 期目はないと警告し [al-Hayāt 20 Sep 2009]、ハンムーディーは ISCI がマリーキーに首班指名を認めたら、彼は UIA と同盟するだろうと指摘している [JCG 2010: 13]。

² 対クルド強硬派のハドゥバー・リストとヌジャイフィー兄弟については、[山尾 2009] を参照。

³ 覚醒評議会は、2006 年月中旬に治安回復を優先させるために米軍が部族に資金・武器を提供して形成した非公的治安機関である。大規模な主要 3 覚醒評議会は、今回の選挙で別々の政党連合に参加した。アリー・ハーティムのアンバール覚醒評議会は法治国家同盟、ハミード・ハーイスのアンバール救済評議会はイラク国民同盟、アフマド・アブーリーシャのイラク覚醒評議会はボラーニー内相率いる統一イラク同盟と、それぞれ連合した。覚醒評議会については、[山尾 2010b] を参照のこと。

⁴ 問責・公正組織は、脱バアス党法に基づいて形成された委員会、旧バアス党員を公職から排除するための審査を行う。同組織の委員長はアフマド・チャラビー、執行委員長はアリー・ラーミーが務める。

⁵ これと対照的に、有力政治家の得票の戦略がうまく機能しなかったイラク国民同盟は、バグダード県では 6,000 票を獲得しても当選できなかった。

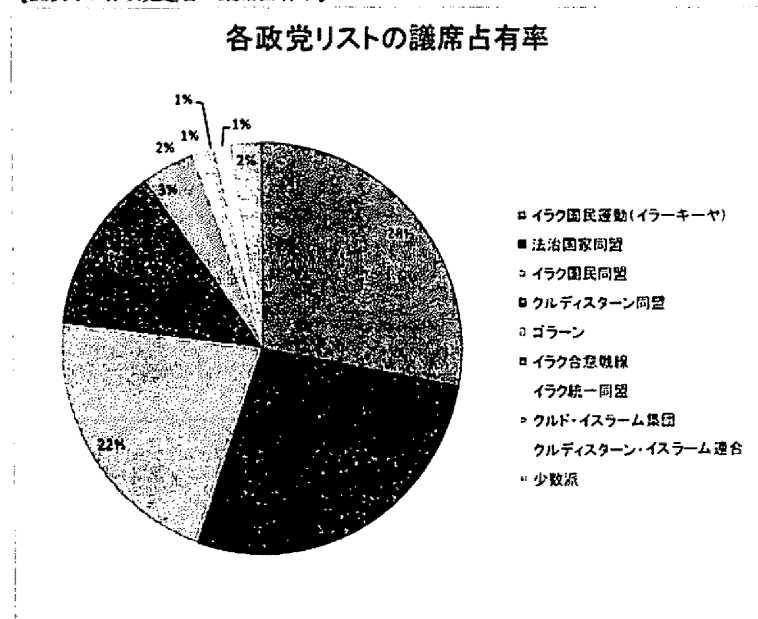
⁶ 全国の個人得票率は、1 位マリーキー首相 (622,961 票)、2 位アッラーウィー (407,537 票)、3 位ウサーマ・ヌジャイフィー (274,741 票)、4 位ハーシミー副大統領 (200,963 票)、5 位ジャアファリー (101,053 票) となっている。選挙の HP をもとに筆者計算。

⁷ これは、アブドゥルアズィーズ・ハキーム前議長長の死去 (2009 年 8 月 26 日に癌のためテヘランで死亡) 後の、息子アンマール・ハキーム新議長就任によって、ISCI の政策を柔軟に変更することが可能となったことがあった。

⁸ サドル派が国内の地域社会に根強い支持基盤を持つ背景については、[Yamao 2009b] を参照のこと。

⁹ 立候補者の資格・条件は、サドル派の支持者となつて 15 年以上経過し、かつバアス党に加盟したことがない人物に限定された。投票所は、バグダードと南部県で実施され、サドル派メンバーと支持者のみが選挙権を持っていた。選出されたサドル派候補者は、イラク国民同盟の一部としてリストに登録された [al-Hayāt 8 Oct 2009]。

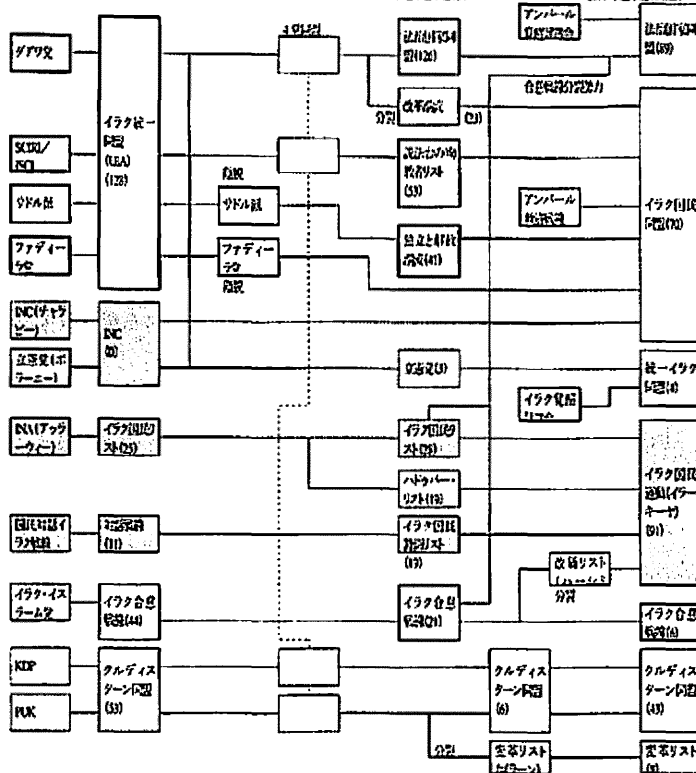
【図表 1：各政党連合の議席占有率】



(出所) イラク独立選挙管理委員会 HP (<http://www.ihcc.iq/Arabic/default.aspx>) をもとに筆者作成。

【図表2：主要政党の変遷】

<2005年12月選挙連合(USC)>



(注) 太枠はシーア派、太枠網掛けはスンナ派、濃い網掛けは世俗主義、その他は世俗主義でも宗派主義でもない政党を示す(クルドは例外)、()内は議席数を示す。

(出所) 筆者作成。

【図表3：主要政党連合の政策綱領の比較】

	国民統合		国民和解		国家・政府の形態			対外政策	
	ナショナリズム	脱宗派主義	脱バアス党政策徹底	旧バアス党員の取り込み	中央集権	地方分権	世俗主義	近隣諸国との関係	反米軍占領
法治国同盟	○	○	○	×	○	×	×	△	△
イラク国民同盟	○	○	○ ¹⁾	×	△ ²⁾	△	×	○	○ ³⁾
イラキーヤ	○	○	×	○	○	×	○	○	△
クルド同盟	△	△	○	×	×	○	△	○	△
イラク合意路線	○	○	△	△	○	×	×	△	○
イラク統一同盟	○	○	○	×	○	×	×	○	△

(注) 1) サドル派の批判によって、ISCIは徹底した旧バアス党員の排除を政策に掲げるようになった。

2) 2009年地方選挙時の連邦制に基づく地方分権、地方政府の形成から、政策変更。

3) イラク国民同盟内の、サドル派は、強い反米・反占領姿勢を取っている。

(出所) 各種報道をもとに、筆者作成。

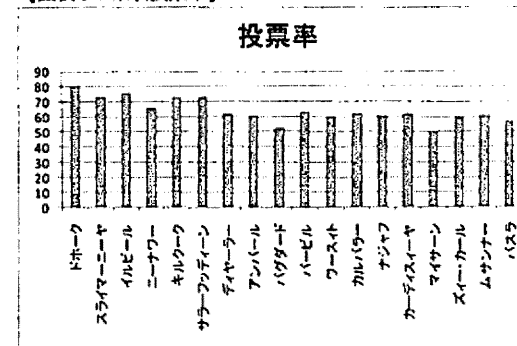
【図表4：主要政党連合の獲得議席数・得票数・得票率(3月27日発表)】

	法治国同盟	イラク国民同盟	イラク国民同盟(イラキーヤ)	イラキーヤ	イラク合意路線	クルディスタン同盟	イスラハット(ボラハン)	その他	合計
ドホーク		192(0)				332,931(76.1)	23,773(5.4)	50,468(11.4)	10(1)
スライマニヤ		205(0)				350,283(42.0)	298,621(35.5)	185,347(22.2)	3
イルビール		431(0)				458,403(66.5)	103,397(15.1)	123,644(18.0)	2
ニーナワ	17,473(1.6)	38,693(3.2)	593,936(52.7)	53,897(4.5)	64,204(4.1)	239,109(21.3)	10,715(1.0)	106,427(9.5)	31(3)
キルクーク	13,514(2.4)	14,230(2.5)	211,673(27.7)		17,236(3.1)	206,542(36.5)	36,554(6.6)	60,994(10.9)	12(1)
サラハッブグ	32,815(6.2)	22,576(4.6)	233,591(47.7)	52,942(10.9)	60,231(12.3)	22,676(4.6)	2,654(0.5)	62,339(12.7)	8
ディヤラー	63,969(12.7)	85,821(17.0)	245,025(48.6)	6,980(1.4)	25,125(5.0)	47,479(9.4)	8,994(1.5)	20,607(4.1)	13
アンハール	6,536(1.3)	5,007(1.1)	294,420(62.2)	43,224(9.1)	56,171(11.9)			68,182(14.4)	14
バグダード	903,360(33.3)	561,699(22.0)	841,755(32.9)	32,924(1.2)	53,413(2.1)	23,263(0.9)	2,471(0.1)	138,418(5.4)	68(7)
バabil	231,539(8.8)	180,193(6.9)	104,746(17.5)	16,836(2.9)	9,013(1.5)	1,227(0.2)		44,009(7.5)	16
ワースト	149,828(39.6)	129,183(34.2)	51,003(13.5)	19,201(5.1)		955(0.3)		27,834(7.4)	11
カルバラー	179,317(53.7)	81,794(24.5)	36,061(10.8)	11,135(3.3)				26,015(7.5)	10
ナジャフ	197,377(47.9)	152,498(37.0)	30,810(7.5)	7,752(1.9)		538(0.1)		23,170(5.6)	12
カーディス	133,067(35.5)	133,821(35.7)	55,030(14.7)	12,842(3.4)		849(0.2)		38,871(10.4)	11
マイサーン	102,566(27.5)	133,319(39.5)	16,473(5.0)	5,296(1.9)				13,881(5.1)	10
ズィー・カール	235,446(41.0)	244,818(42.7)	43,706(7.6)	20,419(3.6)		348(0.1)		28,539(5.0)	15
ムサンナ	98,998(43.1)	71,699(31.2)	18,205(7.9)	21,738(9.5)	713(0.3)	1,451(0.6)		17,001(7.4)	7
バスラ	431,217(52.9)	237,010(29.1)	75,387(9.3)	9,637(1.2)	17,361(2.1)			43,971(5.4)	24
総計	89	70	91	4	6	43	8	6	325
	2,791,644(24.0)	2,093,354(18.0)	2,551,823(24.5)	314,823(2.7)	303,477(2.6)	1,866,074(14.5)	487,181(4.2)	1,110,037(9.5)	718

(注) 上段は獲得議席数、下段は得票数、()内は得票率、をそれぞれ示す。

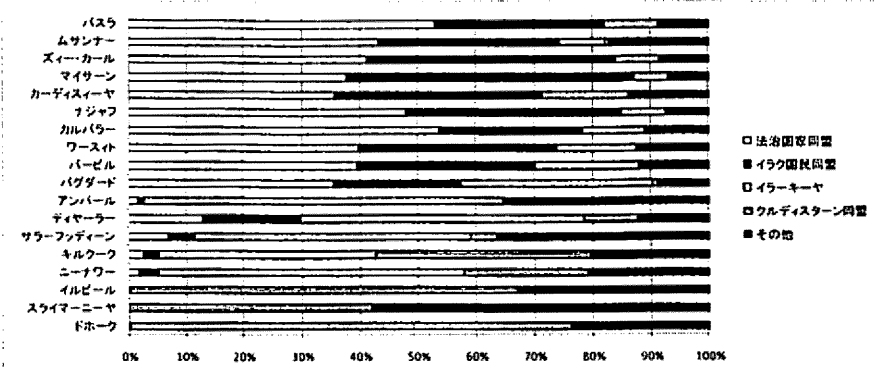
(出所) イラク独立選挙管理委員会HPをもとに筆者作成(得票率の計算は筆者)。

【図表5：県別投票率】



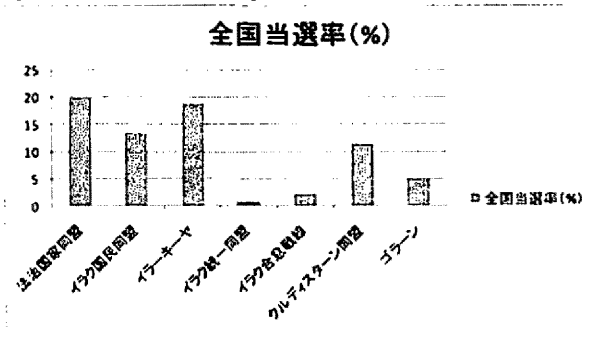
(出所) [JNA 9 Mar 2010]をもとに、筆者作成。

【図表6：主要政党連合の県別の得票率】



(出所) イラク独立選挙管理委員会 HP をもとに、筆者作成。

【図表7：主要政党の当選率】



(出所) イラク独立選挙管理委員会 HP をもとに、筆者作成。

【図表8：イラク国民同盟内の県別議席獲得数】(単位：議席数()内は%)

	ISCI	バドル組織	サドル派	ファデーラ	改革潮流	INC	その他	合計
ニーナワー	1							1(1.47)
ディヤラ		1	1				1	3(4.41)
バグダード	2		12	1	1	1		17(25.00)
バabil	1		3				1	5(7.35)
ワースト			3				1	4(5.88)
カルバラ	1	1	1					3(4.41)
ナジャフ		1	3				1	5(7.35)
カーディスィヤ	1	1	2	1				5(7.35)
マイサーン		1	3	1			1	6(8.82)
ズィー・カール	1	1	4	1	2			9(13.24)
ムサンナー		1	1				1	3(4.41)
バスラ	1	1	3	1			1	7(10.29)
合計	8(11.76)	8(11.76)	36(52.94)	5(7.35)	3(4.41)	2(2.94)	6(8.82)	68(100)

(出所) 選挙 HP、およびイラク国民同盟 HP (<http://iraq316.net/>) をもとに筆者作成(計算は筆者)。